

ひしがたいけ

でんせつ

【菱形池の伝説】



欽明天皇(きんめいてんのう)の時代(540-571年)の頃(ころ)です。

菱形八幡宮の裏(うら)にある洞窟(どうくつ)に「菱形の池」がありました。



その池に八幡神(はちまんしん)が現れ、応神天皇(おうじんてんのう)の生まれ変わりであることを告げました。



この八幡神は洞窟を通過して、大分県（おおいたけん）の宇佐八幡宮（うさじんぐう）へ移（うつ）ったといわれています。



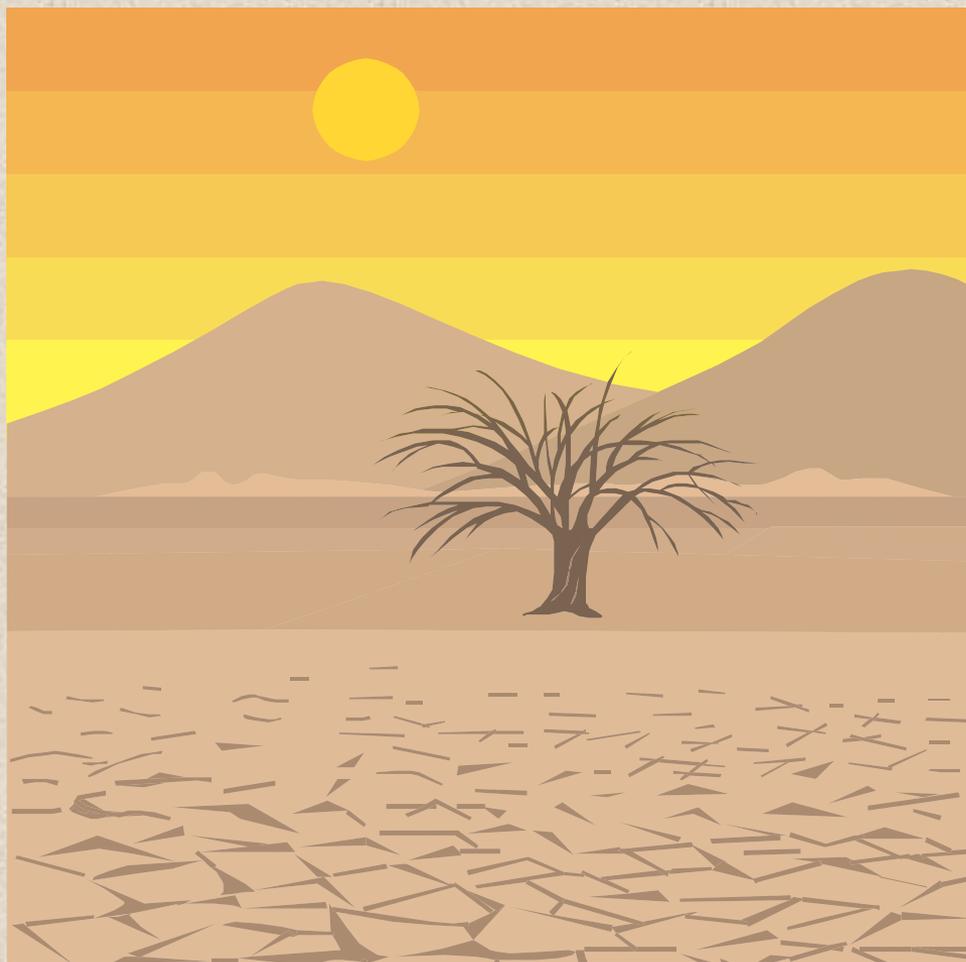
江戸時代(えどじだい)に八幡神出現の伝説
にちなんで、つくられたのが、現在の菱形池
だそうです。



また、この池にはこんな話も伝わっています。



江戸時代、円台寺地区は小高い丘が多く、谷川はあっても水が少ない夏にはかかれてしまい、田んぼの水や飲み水にこまっていた。



ある時、谷川に泉(いずみ)が湧(わ)き出ているのを村人が見つけ、何とかこの水をたくわえようと、正方形(せいほうけい)の池をつくることにしました。



谷川の中につくるので、水の勢(いきお)いに負(ま)けないように材料を石にしました。しかし、数年後、大雨で池は壊(こわ)れてしまいました。



池の修復(しゅうふく)にあたって、大工の辰五郎が「菱形の池にしたらどうか」と言って、図面(ずめん)を差し出しました。



「菱形」は、辺(へん)が斜(なな)めになっているので、水をまともに受けず、流(なが)れを変(か)えることができます。このようにして「菱形の池」ができたともいわれています。



注意事項

- 本編で使用されているイラストはインターネットで配布されているフリー素材のものであります。そのため、営利目的等で利用することは作者の許可なくできません。